

御中

---

## 痴漢抑止バッジデザインコンテスト 2017 実施報告書

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたびは、痴漢抑止バッジデザインコンテスト 2017 に、ご協賛・ご協力いただき誠にありがとうございました。

痴漢抑止バッジデザインコンテストは、お陰をもちまして昨年度を大きく上回る 1338 作品の応募がありました。全国各地の高校、大学、専門学校からはもとより、ニューヨーク、ソウルからも応募がありました。今後さらに発展するように努めていきます。

機会がありましたら、今後ともよろしく願いいたします。

痴漢抑止バッジデザインコンテスト 2017 につき下記のとおりご報告いたします。

敬具

2017 年 12 月 16 日

一般社団法人 痴漢抑止活動センター  
代表理事 松永弥生

〒541-0051  
大阪市中央区備後町 3-6-2 大雅ビル 10F-242  
TEL: 06-7898-7808 FAX:06-7635-7631  
E-mail: info\_scb@scb.jpn.org  
URL: <http://scb.jpn.org/>  
FaceBook : <https://www.facebook.com/scbproject/>

## 【開催主旨】

電車内痴漢は、DVやレイプなどと比較して「軽微な犯罪」として扱われる傾向がありますが、電車内という周囲に人がいる中で、女子高生など未成年が主な被害者になる「性暴力」です。

そこで、電車やバスなど公共交通機関内での痴漢犯罪を抑止するためのツール「痴漢抑止バッジ」を、将来デザイナーを志す学生からデザインを募りました。当事者に近い視点と感性で社会の課題と向き合い、解決することに期待しています。

コンテストは、将来デザイナーとして情報発信する立場になる若者のジェンダー意識醸成という教育的効果があります。審査には中高生が参加し、学生が痴漢問題について話し合う機会を提供しています。

性暴力をめぐる活動は、その被害が深刻であるために被害者を対象にした相談や支援といった当事者と専門家（カウンセラー、弁護士等）による活動や、意識啓発を主体にしたものがほとんどですが、私達はバッジというツールを媒介に、当事者と支援者だけでなく、流通業界や電鉄会社、そして子ども達に通う学校など、さまざまな人たちが「性暴力」と向き合い、主体的に関わることができる活動をめざしています。

デザインコンテストの定着と、痴漢抑止バッジの販売ルートの拡大を通じ、より多くの人たちにメッセージを届け「性暴力を許さない社会」の実現をめざします。

## 1. コンテスト概要

主催： 一般社団法人痴漢抑止活動センター  
協賛： 有限会社ミノルサービス  
株式会社ジェイエス・ロボティクス  
協力： 登竜門  
オープンキャンパス  
卒展  
募集期間： 2017年8月1日（火）～9月20日（水）  
授賞式： 2017年12月3日（日）  
東京ミッドタウン インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター  
審査員： 審査員長：キタイミコト様

## 2. 受賞作品

最優秀賞	藤井 花さん	東京工科大学	『なぜ、痴漢するの?』
優秀賞	光永 美良乃さん	札幌大谷大学	『乙女を鬼にさせないで』
優秀賞	松山 紋子さん	HAL 名古屋	『注意!!!!』
たか子賞	マミオさん	愛知県立芸術大学	『触ると痛い目にあうよ…』
審査員長賞	キタザワさん	秋田公立美術大学	『立ち向かう!』

## 3. 告知

### A) WEB サイト

#### ●登竜門

URL : <https://compe.japandesign.ne.jp/scb-chikan-yokushi-badge-2017/>

#### ●デザインコンテスト公式サイト

URL : [https://compe.japandesign.ne.jp/scb\\_badge/2017/](https://compe.japandesign.ne.jp/scb_badge/2017/)

●PR タイムス (プレスリリース)

URL : <https://prt看imes.jp/main/html/rd/p/000000004.000021637.html>

B) チラシ 40,000 枚作成

全国 505 校に各 80 枚を送付

大阪市営地下鉄 難波駅 / 南海電鉄 コンビニ「アンスリー」20 店舗 / 大阪デザイン振興プラザ / KH Study Room ~学びの場~ / ギャラリー セッションハウス 他

C) ポスター掲示

大阪市営地下鉄 ekimo 難波

南海電鉄 コンビニ「アンスリー」



D) 関連イベント

2017.05.30 青山学院大学 ミニセミナー

参加者 20 名

2017.07.31 性犯罪にまつわる Win-Win 解決法とは! ? (東京・飯田橋)

参加者 50 名

## 4. コンテスト参加者

応募点数

1338 点

学校数

237 校 (全国 42 都道府県 + ニューヨーク、ソウル)

## 5. 予備審査

女子大生 11 名

福岡 3 名

大阪 5 名

東京 3 名

## 6. 一次審査モニター校

中学校・高等学校 7 校 172 名



【参加校】大阪市立南港南中学校 / 芦屋学園中学・高等学校 / 松蔭女子学院 松蔭中学校・高等学校 / 大阪女学院 / 兵庫県立三木高校 / 女子美術大学附属高等学校・中学校 / 浦和麗明高等学校

## 7. 一般投票 (2017/11/8~11/16)

あべのハルカス ウォールギャラリー (ギャラリー展示は 11/28 まで)  
WEB サイト



投票数 あべのハルカス投票 : 29 票 WEB 投票 : 219 票

## 8. メディア掲載

2017.05.31 教育新聞社  
2017.06.19 日本経済新聞  
2017.07.25 ダイヤモンドオンライン  
2017.07.31 ハフィントンポスト  
  
2017.08.24 読売新聞  
2017.09.21 東京新聞  
2017.10.03 J-WAVE STEP ONE  
2017.10.03 中日新聞  
2017.11.02 大阪日日新聞  
2017.11.15 大阪日日新聞  
2017.12.07 東京新聞

女子高生考案の痴漢抑止バッジ モニター校を募る  
痴漢許さぬバッジで意思 女子高生らデザイン  
痴漢被害と痴漢冤罪に悩むすべての男女に、対応策の最新情報  
痴漢抑止バッジ、新デザインを学生コンテストで募集  
「10年後の社会を変えたい」  
痴漢させない このバッジで  
車内痴漢に NO! 心の叫びバッジに  
痴漢抑止バッジ、その効果と秘められた思いとは!?  
電車内の痴漢に NO  
性犯罪許さない 取り組みや実態紹介  
痴漢防ぐバッジ 12点 商品化へデザイン投票  
NEWS その後 新デザイン5点決定



## 9. 活動風景

### ■受賞作品



なぜ、痴漢するの？



乙女を鬼にさせないで



注意！！！！



触ると痛い目にあうよ

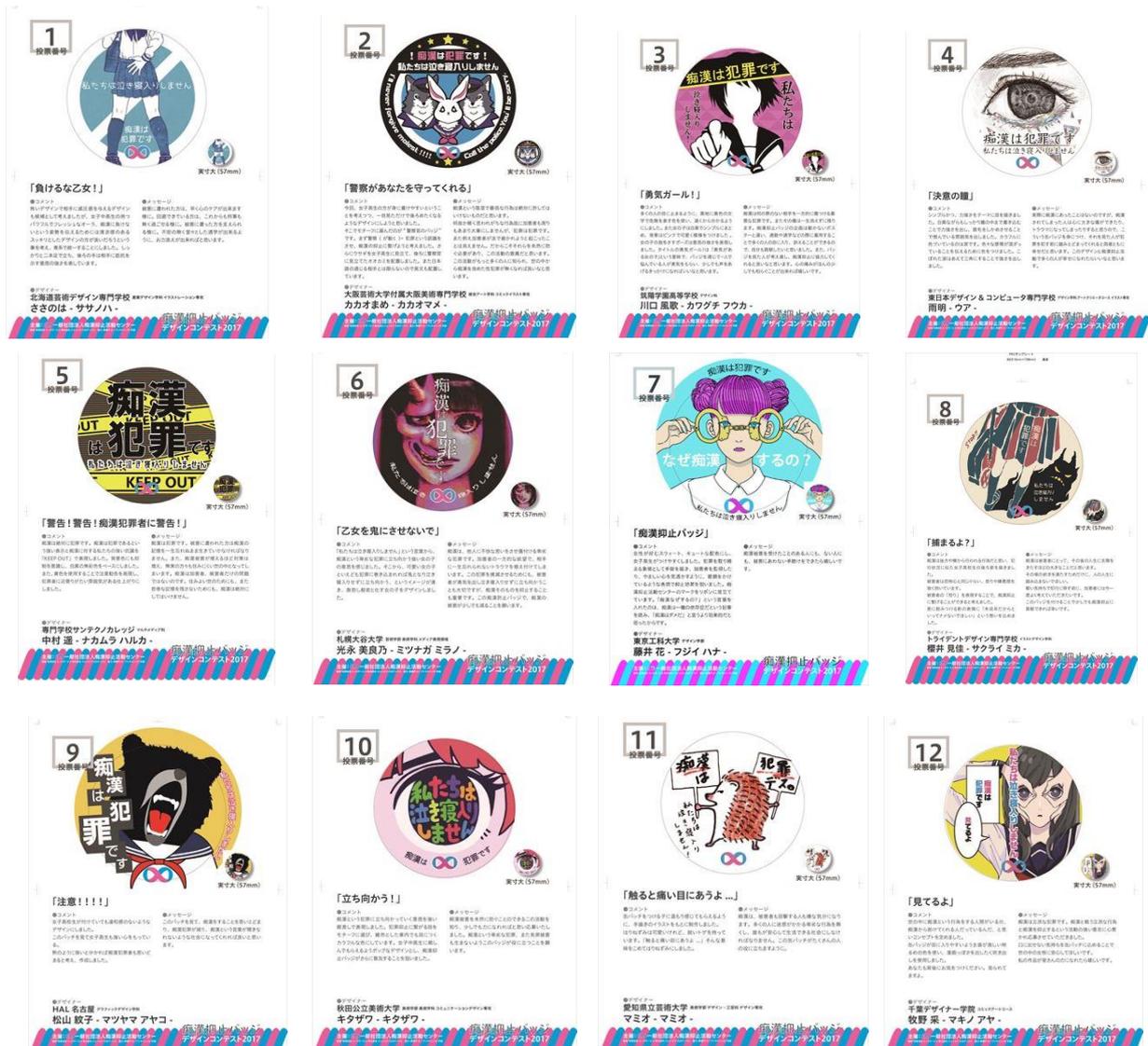


立ち向かう！

### ■記者会見風景（2017/8/1 株式会社丹青社 レセプションルーム）



■ウォールギャラリー展示パネル（2017/11/8～27 あべのハルカスウォールギャラリー）



■授賞式風景（2017/12/3 東京ミッドタウン・デザインハブ）



## 10. コンテスト参加者の声

### A)デザイン応募者

- 高校生だった時、友人から痴漢にあったという話を聞いた時に胸を痛めていました。何かしてあげられることはないか。そう考えてもピンとくるものはありませんでした。そして、大学生になりこのような抑止方法があるのか、活動をしていらっしゃる方々がいることを知り自分もお手伝いできることがあればと思い今回参加させていただきました。一人でも痴漢で泣く方が減るように活動を頑張ってください！
- 痴漢被害者への二次加害が問題になっています。「痴漢された方にも問題があったのでは」「痴漢する方だって相手を選ぶ」「自意識過剰」「自慢したいのでは」…周囲の人たちの誤った認識や心ない言葉が被害者をさらに傷つけ、助けを求められない環境を作ることがあります。メディアにはこうした考えを正しい方に導く力があるはずで、表現の力で、理解が今よりも広がって欲しいです。
- 僕は男子なので被害に遭ったことはありませんが、被害者の女の子の話は聞いたことがあります。その子は「とても怖かった」と震えるような声で話してくれたのを覚えています。電車の中で行われるか弱い女子を狙った陰湿で卑劣な痴漢はたとえ一瞬の気の迷いであつたとしてもとても許される行為ではありません。
- 痴漢の被害を受けたら、大声を出せばいい、逃げればいい、などとよく聞きますが、実際はそんなこと出来ません。恐怖で動けずにいる人がほとんどだと思います。なので未然に防ぐことがなにより大事なことで応募を通して改めて感じました。そのために痴漢抑止バッジはとても効果的なツールだと思います。活動が広がり、犯罪がなくなる日がくることを願っています。
- 私自身電車通学をして痴漢の被害にあったことがありました。そして実際に被害者の立場になるとどうすれば抑止できたのか、日常的にできることはないか、は難しい問題でした。今回デザインしたようなバッジであれば日常的に身につけやすく、抑止活動ができると考えました。痴漢抑止バッジをつける必要のない社会になることが1番です。それまでは同じ立場の人々の役に立てればと思いました。
- この活動を知り、現役女子高生が考案者だということにとっても驚きました。近年痴漢が社会的に問題視されていますが、被害を減らすため活動する一般人はあまりいません。大人すら多くが“誰か”による解決を待つ中行動を起こした娘さんや、共に悩み、考え、プロジェクトを育んだ方々の姿に感動するとともに、私もじっとしてはられないと強く思いました。微力ではありますが、痴漢撲滅のため少しでも助けになれば幸いです。
- 実際の被害にあったとき、恥ずかしさや怖さなどからなかなか声を上げることができない人が多いと思うので、まず「させない」事を意識したいなと感じました。デザインの力は本当に大きいと思うので、こういった活動で少しでも痴漢抑止が出来たらいいなと思います。
- 痴漢問題は女子中高生にとってすごく身近な問題なのにあまり防止する方法のないイメージなので、この缶バッジをつけることで少しでも防止できたらと思います。痴漢は絶対に加害者が悪いですが、まず痴漢をさせないために活動することも大切だと感じます。バッジをつけることに恥ずかしさや抵抗があっても、同年代の女子の考案したものなら抵抗が少ないと思うので、多くの方がバッジをつけて痴漢件数が減ることを願っています。
- 今回このコンテストに参加することで、痴漢犯罪の深刻さを知ることが出来ました。私も登下校に電車を利用しているので、他人事ではないなと感じました。また、痴漢被害者や冤罪被害者を生まないためには、痴漢行為自体が起らないようにする必要があり、そのための痴漢抑止バッジはとても効力のあるツールだと思います。これからさらにバッジが普及し、痴漢犯罪のない社会が作られていくことを願います。

### B)中高校生モニター審査員

- 全部違っているけれど、どれもすごい考えて作ったのだと思うデザインでとても上手でした。
- 痴漢問題のために痴漢抑止バッジが出るなんて情けないことだなと思う。
- デザインで使いたいことを伝えたいことを伝えられたらいいと思ったからです。
- 実際そういう経験があった子がいて嫌だったという意見を聞いた子とがあり、そういうのをなくせるのではないかと思います。

- 年々、デザインの案が増えていっていると聞いて、痴漢について、皆が少しずつ考え方を考えていっているのだなと思いました。
- こういう取り組みを知らなかったのが驚いた。
- うすい色だと、インパクトはないと感じる。文字で「痴漢はダメ！」と伝えるか、絵で伝えるか、...
- これを作ったことによって痴漢が減ると思いました、
- どれも痴漢は絶対にだめだということがしっかりデザインから伝わってきてすごいと思いました
- 大半の作品がとても可愛くてすごいと思いました。このデザインならつけたいなと思いました。
- 痴漢はとてもしけないことだと思った。また、痴漢をする人はどういう考えを持っているのだろうかと思った。人間は欲に負けたら終わりだよ。
- とても印象的なデザインで、どのバッジをつけても痴漢は減ると思った。可愛いデザインで、女の子がつけやすいものが多く、迷ってしまいました。色々な方につけていただいて、少しでも痴漢が減ればいいなと思いました。

### C) 一般投票

- 自身も若い頃は、通勤電車の中でよく痴漢の被害に遭いました。最初はまだ、十歳のときでした。いまだにあのことは忘れません。この取り組みはとても意義があり、効果も期待できると思います。この作品は、当人たちにつけてもらうことを意識しているのが良いと思います。
- 早くバッジ作って売ってください！バッジの案が出てからずっと応援してます！
- 意義のあるデザインコンペだと思います。若者が応募し易いのも良いです。
- 私自身も学生時代、痴漢被害に度々遭い、性犯罪に泣き寝入りした1人です。被害は女性だけではなく、男性にも及んでおります。コンセプトは立ち上がった女子高生ですが、性別に関わらず、全ての人たちが、このような性犯罪に巻き込まれたり、遭ったりすることがないように、願いを込めて選択させてもらいました。
- 痴漢を止めるのではなく「なぜ痴漢するの？」と訊ねられると自分の行動を俯瞰して見ることが出来て抑止に繋がると思い、この作品を選びました。
- 手錠などを取り入れることにより痴漢が犯罪であるという意識もでていのではないかと思います。痴漢は今冤罪で誤認逮捕などありますがこうしたことや本当に起きてしまう痴漢がバッジにより少しでもなくなると良いなと思います。
- 実は、昔痴漢に遭ったことがあるので、こういう話にはとても敏感です。藤井さんの作品には、手錠が描かれているので、痴漢は犯罪であるということが、大変分かりやすいです。痴漢も痴漢冤罪も許しません。一刻も早く、痴漢がなくなれば良いなと思っています。
- デザインに1つ1つ深い意味があり、「痴漢はダメだ」と強く思わせられる作品だった。また女子高生らが実際にストラップとして付けられるようにちゃんと色の配色を考えてるところも凄く良いと思った。
- 痴漢したい気持ちを「どう抑えさせるか？」がこのコンペの課題だと感じました。その上でこの作品は「なぜ痴漢するの？」と問いかけることで、冷静にさせられたような気がします。「冷めさせる」「恐怖（手錠から）」という感情を一番感じたので、この作品に投票させていただきました。
- せっかく学生の柔軟なデザインを募集しているのだから、コピーの縛りは無くてもよかったのではないかな。もっと良いコピーがそこで生まれるかもしれないのに、慣れ親しんだ既存の耳なじみの良いコピーを入れなければいけないというのは、応募者のもつデザインの可能性を引き出しきれないのではないかなと思った。また、応募者のもつ価値観や、デザインの世界観等に制限がかかってしまっているように感じた。
- 痴漢被害は、一生のトラウマにもなりかねない女性にとっては大きな問題だと思います。少しでも犯罪が減る為に大切な第一歩。自らも身を守る為にバッジはとても良いアイデアだと思います。

以上